

第17回 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）対策協議会 議事録

- ・日時：平成27年10月29日（木）10:00～10:45
- ・場所：西尾市役所 53 会議室
- ・出席：（自治体）西尾市 小島副市長
蒲郡市 井澤副市長
愛知県振興部交通対策課 市田課長
（オブザーバー）中部運輸局鉄道部監理課 小河原課長
名古屋鉄道株式会社 鈴木常務取締役

[発言要旨]

1 開会

（会長：西尾市）

- 本日の総会は、2市と名鉄との確認書に基づいた昨年度の事業実績の報告と幹事会等で協議を重ねた28年度以降の路線運行支援の継続のための審議を予定しています。
- 名鉄西尾・蒲郡線は西尾市・蒲郡市だけの問題でなく、三河南部地域の重要な交通インフラであるため慎重審議をお願いします。

2 報告事項

平成26年度名鉄西尾・蒲郡線の概況について

（名鉄）

- 資料「西尾・蒲郡線（西尾～蒲郡）の概況」にもとづいて説明。
- 平成26年度の輸送人員は、通勤定期1.8%増、通学定期5.4%減、定期外1.2%増となり、合計では317万3千人で昨年度より2.1%減となり、特に通学定期は昨年度の消費税増税前の駆け込み需要により減少しました。
- 輸送密度は、2.6%減の2,741人/日となりました。
- 駅別1日平均乗降人員の推移では、4駅で増加、9駅で減少となった。特に福地駅は5.2%の増加となり通勤定期が伸びている。一方、三河鳥羽・東幡豆・こどもの国・西浦は5%以上減少しました。
- 平成27年度の第1四半期の状況は前年の駆け込み需要の反動による影響等により大きく増加しています。
- 区間収支について、平成26年度の収入は3億6,365万8千円、支出は10億9,057万8千円となり、差引で7億2,692万円の経常損失となりました。
- 収入では、定期外収入と駐車場収入などの運輸雑収入、受取利息などの営業外収入が増加。支出では、人件費の増加、電気料金の値上げにより経費の増加、投資の抑制と一部償却が完了したことで減価償却費は減少しました。

3 議事

第1号議案 名鉄西尾・蒲郡線（西尾駅～蒲郡駅）存続に向けた支援に関する基本合意について

(事務局：西尾市地域支援協働課)

- 支援期間については、平成28年度以降5年間。
- 支援金額については、西尾市と蒲郡市を合わせて年間2億5千万円。
- 総会以降の予定として、3者の基本合意に基づき、直近の市議会12月定例会に5年間の支援金に係る債務負担行為の予算案を提出、議決。
- 平成33年度以降の鉄道運行及び支援の継続については、利用状況等を踏まえ、改めて協議を行うこととします。

4 その他

(蒲郡市)

- 「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に市民も巻き込み取組んでいる。安倍政権の肝いりの政策であるのに、もし地方鉄道が廃止となれば地方創生でも何でもなくなってしまうので、地方鉄道に対しての国の関与の仕方について検討していただきたいと希望しています。
- 幸いこの地区は、中部運輸局・愛知県の大なるご指導を頂いており感謝しています。
- 経営状況の苦しい中、名鉄には5年という決断をいただき地域貢献の姿勢、また見識の高さに感謝しています。
- 関係者の好意に甘えるだけでなく、我々も利用促進に取り組んでまいります。

(名鉄)

- 利用促進について様々な活動をしていただきありがとうございます。
- 平成28年度以降も西尾市・蒲郡市から財政支援をいただきながら、鉄道事業者として安全運行を最優先に地域の足として頑張っておりまいます。
- 26年度は消費税増税による駆け込み需要等による反動で、輸送人員、収支とも若干悪くなったが、ここ数年で見ますと増加傾向にあります。
- 経常収支は依然大幅な赤字が続いています。
- 名鉄としても沿線各所から西尾・蒲郡線に来てもらえるような利用促進に努めてまいります。沿線住民の皆様にもより一層の利用促進の実施、沿線の活性化に取り組んでいただき、ひとりでも多くの方にご利用いただきたいと思ひます。

(中部運輸局)

- 5年に伸びたということで、これから33年度を見据えた検討をしていくことになると思ひます。
- 鉄道は交通ネットワークの中の基幹であり、2市は公共交通ネットワークをどのように構築していくか考えて西尾・蒲郡線の利用増に繋がるよう議論してもらいたいと思ひます。
- 名鉄は、安全・サービスの向上を十分に図り、この鉄道が維持存続するように行っていただければと思ひます。

(愛知県)

- 利用者の減少に伴い鉄道から路線バス、更に距離の短く利用者の少ないコミュニティバスへのシフトが全国的に進んでいます。
- 鉄道を地域振興に不可欠な社会基盤として、支援をするとした2市の皆様と公共交通の担い手としての責任から運行を継続するとして名鉄に心から敬意を表します。
- 5年間の運行の合意を受けましたが、33年度以降についても今のうちから布石を打って行くべ

きだと思えます。

- 持続可能な鉄道とするためには利用者の増加が不可欠です。沿線人口が減少していく中、観光客などの今まで以上に地域外の方から誘致を行い、地域資源の掘り起こし磨き上げやアクセスの確保など知恵を絞って取組んでいただきたいと思います。
- 県としても利用者増の取り組みに対し、引き続き出来る限り協力していきます。
- この4月の機構改革で、同じ振興部の中に交通対策部門と観光部門が設置され、これまでより交通と観光が連携しやすくなったので、観光対策で西尾・蒲郡線のためにとってもらえば話しやすくなるかと思えます。

(西尾市)

- 本市は市域を南北に走る西尾線と東西に走る蒲郡線があり、この2路線が基幹交通となっていてまして本市の生命線という位置づけになっています。市長も常々この路線を「名鉄のドル箱にする」と大変な意気込みがございします。
- 愛知県のお話の中で、交通部門と観光部門が同じ部であるということで心強く思っております。昨年からは西尾市では「観光元年」ということで観光事業に力を入れていて、市長がドル箱にするということも夢ではないのかと思えます。
- 鉄道事業を取り巻く環境は少子化や、将来的には人口減少が見込まれている中、利用者数の減少は否めないかと思えます。特に通学輸送がローカル線においては更に減少していく言われています。鉄道存続の方策については、何らかの手を打っていかねばならないかと思えます。このためには利用者の利便性や快適性への配慮が必要かと思えます。
- 西尾・蒲郡線では、小規模な輸送に見合った設備やシステムへの転換が重要な鍵になると私は思っています。
- 5年間という存続に安心することなく、将来の地域発展を含め皆さまにも絶大なるご理解ご協力をお願いします。

(以上)